

岸田てつはる 区政報告

発行所：自民党大田区民連合
(政務調査係)

住所：大田区蒲田5-13-14

電話：03-5744-1480

いつの頃からかゲリラ豪雨と言った言葉がよく普通に広く使われるようになってきました。それまでの夕立やわか雨のイメージとは異なる、短時間に時間一〇〇ミリを超える猛烈な雨は各地で頻発し、排水能力を越え、様々な浸水被害などの被害を引き起こしています。

平成二十五年七月二十三日にも、わたし達の住む大田区を含む城南地区で局地的な豪雨がありました。この豪雨では、目黒区周辺地域で、一五時三〇分から一六時三〇分までの一時間に約一〇〇ミリを越える猛烈な雨が観測されました。この豪雨により、床上・床下浸水のほか、道路の冠水による交通障害や鉄道などの交通機関への影響も発生し、城南地区全体で四百棟を超える浸水被害となりました。

東京都では、この年に頻発した豪雨を受け、東京都は「東京都豪雨対策基本方針」を改定し、流域対策や河川整備、下水道整備を見直しました。また、東京都下水道局では「豪雨対策下水道緊急プラン」を策定し対策に乗り出しました。現在、「東京都豪雨対策基本方針」と「豪雨対策下水道緊急プラン」の対策の一環として呑川流域で新たな下水道幹線の掘削が進められています。

今回の区政報告では、新たな下水道幹線工事の進捗状況と呑川で発生する蚊柱の原因であるユスリカへの対策などをご報告いたします。



自民党大田区民連合
岸田 てつはる 議員

平成25年7月の豪雨で浸水被害のあった呑川流域の豪雨対策の進捗について

東京都では、平成17年9月4日の杉並区・中野区を中心とした時間100ミリを超える豪雨を受け、平成19年8月に「東京都豪雨対策基本方針」を策定しました。その後、これまでの時間50ミリの計画降雨を超える豪雨が複数回発生したため、平成25年10月に「東京都豪雨対策基本方針」の改定が行われました。平成25年7月23日の大田区のある城南地区で発生した豪雨は、改定のきっかけのひとつになっています。

この豪雨を振り返りますと、平成25年7月23日の昼過ぎから雷を伴った猛烈な雨が降り、城南地区を中心に猛烈な豪雨となりました。目黒区中央町・碑文谷周辺では15時30分から1時間に約100ミリを越える雨量が観測されました。世田谷区深沢、目黒区八雲、大田区上池台等、都内全体で床上310軒、床下132軒、合計442軒の浸水被害が発生しました。

平成27年7月の豪雨の被災地域においては、浸水被害の状況を踏まえ、過去の浸水発生状況、降雨強度、窪地や坂下等の地形や下水道の整備状況などを確認し、最大で時間75ミリの降雨までを下水道施設で対応する方針を「東京都豪雨対策基本方針」の改訂版で打ち出しています。

現在、呑川流域では2つの下水道の排水能力を増強するための工事が進められています。

一つ目は、東京工業大学(以下、東工大)の呑川に面したグラウンドに東京都下水道局の建物が仮設されています。この建物の地下を起点として呑川に沿って、日本体育大学に程近い世田谷区立三島公園までの約4.0kmに雨水を一時的に貯め浸水被害を軽減する貯留管を設置する「呑川増強幹線工事」が進められています。工事の概要は、東工大のグラウンドに立坑を掘削した後、三島公園までの地下12～15mをシールド工法で下水道幹線を掘り進めています。なお、下水道の内径は3,250mm。工事の完成は令和5年度になる予定です。

二つ目は、先述した平成25年7月23日の豪雨において、大田区上池台3・5丁目付近では、床上16軒、床下31軒、事業所浸水50軒、道路冠水2地区の浸水被害が発生しました。

この豪雨を受け、東京都下水道局では、1時間に100ミリ近い豪雨に対応した「豪雨対策下水道緊急プラン」を策定し、浸水対策を実施しています。現在、仲池上2丁目にある大田区立特別養護老人ホーム池上を起点として、小池小学校正門前の開光坂児童公園までの約1,500mを地形の勾配を利用して排水する自然排水区からポンプ排水区へ切り替えるための新たな下水道管の整備を行っています。シールド工法を用いて、地下11～15mに内径2,600mmの下水道を掘り進めています。完成後は豪雨による雨水を一時的に貯める貯留管として使用し、晴天時に下水道へと放流していきます。完成は、平成31年度の予定でしたが、想定されていなかった玉石や泥岩等の硬い地層があり、その対策をとったため令和5年度末となる見込みです。

この工事完了後、更に上池台地区から北千束地区までの雨水流域面積約270haをカバーする総延長3,200mの新たな下水道幹線〔(仮称)洗足池増強幹線〕を整備する計画です。これにより時間あたり75mmの降雨に対応することが出来るようになります。

これらの対策の対象エリア以外でも、平成25年7月23日の豪雨では窪地や坂下等での被害箇所が点在しており、雨水マスの増設やバイパス管の整備等が早期に実現されるよう、わたし達も働きかけていきたいと考えています。

呑川での「蚊柱」の原因となるユスリカの大量発生への対策について

川沿いの道を自転車で走っている時、突然現れた蚊柱を避けられずに突っ込んでしまい不快な思いを経験された方は少なくはないのでしょうか？

蚊柱は、ユスリカという昆虫が交尾の為に群れをなして飛んでいる状態をいいます。ユスリカの外見は蚊によく似ていますが、少し種類の違う昆虫で、蚊のように人を刺すことはありません、なぜなら成虫になった後の寿命は1～数日程度で口にあたる機関は退化し痕跡しかないからです。大量に発生したユスリカは死骸になった後、風化し細かな粒子になって鼻炎や喘息などのアレルギー症状の原因になったりもします。大田区では、体長約2.5ミリ程の淡い緑黄色をしたフタスジツヤユスリカが多く見られます。

ユスリカの成虫は、殺虫剤を使用して駆除することが有効です。しかし、環境省と農林水産省の連名で「住宅地等における農薬使用について」という通知が出されており、近隣住民の方々の健康を配慮し、薬剤の飛散対策の徹底が求められています。そのため殺虫剤を使用した大規模な駆除をすることはなかなか難しいのが現状です。しかし、ユスリカの幼虫は、水生で藻付近に狭く密集して生息していますので、川底に付着した藻を清掃することにより駆除することができます。

令和3年度、大田区では呑川流域のユスリカの大量発生への対策として河川清掃を行いました。清掃範囲は、境橋から東海道新幹線のガード下までの間(機械を導入した清掃:43日間、機械と人力併用による清掃:20日間)、そして、東海道新幹線のガード下から第2京浜にかかる池上橋までの間(機械および人力による清掃:20日間)となります。また、補完対策として、飛翔する成虫を駆除するため、捕虫器と捕虫シートも設置し、ユスリカの発生抑制に努めています。

洗足池公園の近況と洗足池駅前のビルの解体について

洗足池駅周辺の地域は、水と緑が溢れる洗足池公園はもちろんのこと、勝海舟記念館の開館などを経て、益々、自然と歴史そして文化といった地域資源が豊富な地域になってきています。大田区では、洗足池公園の散策路のリニューアルなどにより、幅広い方々が安心して楽しんで散策していただけるように整備を続けてきました。今後は、老木となった桜の木の植え替え推進や洗足池の水質浄化の推進など、更に洗足池公園が魅力溢れる公園になるよう区に対して働きかけていきたいと考えています。



昨年12月、洗足池駅の改札を出た左側のラーメン店等が入居していたビルが解体され、駅前のスペースが広くなりました。暫定的にコインパーキングとして活用されていますが、このスペースを利用してキッチンカーや移動販売車等と呼んだイベントなどができないかと考えています。

区議会へ区民の皆さんの声を届けます。

皆様のご意見やご要望をお待ちしております。

自民党大田区民連合 TEL:03-5744-1480